

いっしょ

詩篇133篇

【都に上る歌。ダビデの詩。】

見よ、兄弟が共に座っている。

なんという恵み、なんという喜び。

かぐわしい油が頭に注がれ、ひげにしたたり

衣のえりに垂れるアロンのひげにしたたり

ヘルモンにおく露のように

シオンの山々にしたたり落ちる。

シオンで、主は布告された

祝福と、とこしえの命を。

「兄弟が共に座っている」

- 「兄弟」とは**家族・仲間**のこと
 - 肉親の兄弟のことではない
- 「座っている」とは**くらす・関わる**こと
 - ただ隣り合って座っているだけではない!
 - “兄弟たちが一つになって共に住む” <新改訳>.
 - 英語訳聖書では“live”“dwell”
- 「共に」とは**なかよくいっしょ**にしていること
 - 「和合して」<口語訳>「一つになって」
 - “together in harmony”, “together in unity”

「なんという恵み、なんという喜び。」

- この歌はバビロン捕囚から帰った後、作られた
 - ▣ イスラエルは大国に滅ぼされ、国を失った
 - ▣ 多くの人たちが死に、家族や仲間はばらばらになった
 - ▣ 一部の人たちが国に帰り、いっしょに暮らし始めた
- 「兄弟が共に座っている」のは最高の祝福
 - ▣ ものすごくうれしく、ものすごく幸せなこと
 - ▣ 「かぐわしい油が頭に注がれ、ひげにしたたり…」
 - 豊かに注がれる香油のような神様からの祝福
 - ▣ 「ヘルモンにおく露のように／シオンの山々にしたたり落ちる。」
 - 乾いた土地に降りる夜露のような神様からの恵み

「いっしょ」のむずかしさ

- ひとり暮らしが増えている
 - ▣ 8人に1人は一人暮らし
 - ▣ ひとり世帯**27%**(2014年) > 19%(1970年)
- 家族が生まれず,こどもの数が減っている
 - ▣ このままいくと「西暦2500年に日本の人口は1000人を切ると」という説がある
- いっしょにいることの難しさ
 - ▣ 平和でなければならない
 - ▣ 気をつかったり,がまんしたり,ゆるしたり,ぎせいをはらったりしなければならない

「いっしょ」は神様の願い

- 神様は人間を男と女に創造された
 - ▣ いっしょにすることで人間は保たれる
- イエス様は神と人・人と人がいっしょにいるために十字架にかかられた
 - ▣ 「御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し…」エフェソ2:14
- イエス様は弟子たちを新しい家族とされた
 - ▣ 「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。」ヨハネ15:12

「いっしょ」をつくり出す

- 「いっしょ」を恐れない
 - ▣ 傷つけられること、裏切られることを恐れない
- 「いっしょ」が人を育てる
 - ▣ 「愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制」ガラテヤ
- 「いっしょ」をつくり出そう
 - ▣ 「愛の反対は憎しみではなく無関心」エリ・ヴィーゼル
- 「いっしょ」を神様は祝福される
 - ▣ 「主は布告された／祝福と、とこしえの命を。」

詩編133篇

ヒネ マ トブ ウマ ナイム

見よ 何という恵み 何という喜び

シェベツ アヒム ガムヤハツド

暮らしている 兄弟が いっしょに

(喜び幸い われらは一つ)